環境影響評価を行った環境要素に及ぼす影響の程度を把握するとともに、予測、評価及び環境 保全措置の妥当性を検証することを目的として、事後調査を実施する。

事後調査計画は、表4.1に示すとおりである。

なお、事後調査結果が環境影響評価の結果と著しく異なる場合は、その原因を調査し、本事業の実施に起因することが判明した場合には、必要な環境保全措置について検討するとともに、必要に応じて追加調査を行う。

表 4.1(1) 事後調査計画

T	T .= . :	衣 4.1(1) 争佞嗣且引回		
環境要素	調査事項	調査方法	調査場所	調査時期
大気質	解体工事による粉 じん	市民等からの苦情があった場合には、 その内容及び対処方法並びにその後の	事業予定地周辺	解体工事中
	    建設機械の稼働に	状況を調査する。 建設機械の配置及び稼働状況を調査す	 事業予定地内	 建設機械からの大
	建設機械の稼働に   よる大気汚染(二		争耒了足地内	建設機械が5の人気汚染物質の排出
		<b>వ</b> .		気汚条物質の排出量が最大と想定さ
	酸化窒素及び浮遊   粒子状物質)			重が取べて思定される時期
	松」状物質!   工事関係車両の走	 自動車交通量(一般車両及び工事関係	 予測場所と同じ	工事関係車両から
	行による大気汚染	車両)及び走行速度を調査する。	地点	の大気汚染物質の
	(二酸化窒素及び	平内 / 次した   1 応及を副員 / 0。	>B/m	排出量が最大と想
				定される時期
	熱源施設の稼働に	 排出ガス量及び排出ガス中の窒素酸化	 事業予定地内	供用時
	よる大気汚染	物濃度を調査する。	3.38.3.22.313	<i>y</i> (7.13)
騒 音	建設機械の稼働に	「特定建設作業に伴って発生する騒音	事業予定地敷地	建設機械の稼働に
	よる騒音	の規制に関する基準」(昭和43年厚生	境界で、建設機	よる騒音の予測を
		省・建設省告示第1号)に基づく方法に	械の稼働による	行った工種毎に最
		より調査する。また、建設機械の配置	騒音の影響が大	も影響が大きくな
		及び稼働状況も併せて調査する。	きくなると予測	ると想定される時
			される地点	期
	工事関係車両の走	「騒音に係る環境基準について」に基	予測場所と同じ	工事関係車両の走
	行による騒音	づく方法により調査する。また、自動	地点	行による影響(合
		車交通量(一般車両及び工事関係車両)		成騒音レベル)が 最大と想定される
		及び走行速度も併せて調査する。		時期
振 動	建設機械の稼働に	「振動規制法」に基づく方法により調	事業予定地敷地	建設機械の稼働に
	よる振動	査する。また、建設機械の配置及び稼	境界で、建設機	よる振動の予測を
		働状況も併せて調査する。	械の稼働による	行った工種毎に最
			振動の影響が大	も影響が大きくな
			きくなると予測	ると想定される時
			される地点	期
	工事関係車両の走	JIS Z 8735に定める方法により調査す	予測場所と同じ	工事関係車両の影響(答グスラン
	行による振動 	る。また、自動車交通量(一般車両及び工事関係東京、ひびま行連席を併せ	地点	響(等価交通量)
		び工事関係車両)及び走行速度も併せ て調査する。		が最大と想定され
地 盤	   地盤変位	_ C調宜する。   水準測量により調査する。		る時期 工事中
景観	眺望及び圧迫感の	小学別量により調査する。   写真撮影による方法により調査する。	予集が足地同辺 予測場所と同じ	
<b>小 町</b>	変化	した。 に田 門 いっぱい いっぱい いいまい いっぱい	地点	11 17 14/1
廃棄物等	工事中に発生する	廃棄物の発生量、搬入先、処理方法、	事業予定地及び	工事中
	廃棄物等の種類、	有効利用の方法及び再資源化率につい	その周辺	
	量及び再資源化量	て調査する。		
	存在・供用時に発	廃棄物の発生量及び再資源化量を調査	事業予定地内	供用時
	生する事業系廃棄	する。		
	物等の種類、量及			
<b>注:</b> 人細本声	び再資源化量	사용하다.		

注)全調査事項について、市民等からの苦情があった場合には、その内容及び対処方法並びにその後の状況を調査 する。 - 415 -

表 4.1(2) 事後調査計画

環境要素	調査事項	調査方法	調査場所	調査時期
温室効果	工事中に発生する	原材料の追跡等が可能な範囲内にお	事業予定地内	工事中
ガ ス 等	温室効果ガスの種	いて、建設資材の使用に伴う温室効		
	類及び量	果ガスの排出量について調査する。		
	存在・供用時に発	新建築物の存在・供用に伴うエネル	事業予定地内	存在・供用時
	生する温室効果ガ	ギー等の使用に伴う排出量、緑化・		
	スの種類及び量	植栽について調査し、二酸化炭素の		
		吸収量を算定する。		
	オゾン層破壊物質	解体工事におけるフロン類の処理方	事業予定地内	解体工事中
		法について調査する。		
風 害	ビル風の影響の程	市民等からの苦情があった場合に	事業予定地周辺	存在時
	度	は、その内容及び対処方法並びにそ		
		の後の状況を調査する。		
日照阻害	日影の影響の程度	市民等からの苦情があった場合に	事業予定地周辺	存在時
		は、その内容及び対処方法並びにそ		
		の後の状況を調査する。		
電波障害	電波障害の程度	市民等からの苦情があった場合に	事業予定地周辺	存在時
		は、その内容及び対処方法並びにそ		
		の後の状況を調査する。また、電波		
		障害が予測された地域において採用		
		した電波障害対策の方法を調査す		
		る。		
安全性		工事関係車両の走行ルート上におけ		工事関係車両台数
	自動車交通量	る交通量を調査する。	(安全性への影響	が最大と想定され
			が大きくなると予	る時期
			測される区間)	
	工事の実施に伴う	工事関係車両台数及び歩行者及び自	事業予定地周辺	工事関係車両台数
	自動車と歩行者及	転車交通量を、数取り器により調査	(予測場所と同じ	が最大と想定され
	び自転車との交錯	する。	区間)	る時期
	供用に伴う自動車	方向別に大型車類及び小型車類の2		供用時(平日)
	交通量	車種に分類し、数取り器により調査	(安全性への影響	
		する。また、新建築物関連車両台数	が大きくなると予	
		も併せて調査する。	測される区間及び	
			新建築物関連車両	
	 	 	出入口)	# 田吐 / 亚口 \
		方向別に歩行者及び自転車に分類	事業予定地周辺	供用時(平日)
	及び自転車交通量 	し、数取り器により調査する。また、 施設利用者数も併せて調査する。	(予測場所と同じ	
		心政が用句数で)がせて過且する。	区間及び施設利用	
	     供用に伴う自動車	 自動車、歩行者及び自転車に分類し、	者出入口) 事業予定地周辺	   供用時(平日及び
	供用に任つ自動単   と歩行者及び自転	自動車、歩行有及び自転車にガ類し、 数取り器により調査する。	│ 事業アル地向辺 │ (予測場所と同じ	供用時(平日及び     休日)
	こぶり有及び自転   車との交錯	メメソ品により剛旦する。	(予測場所と同じ   区間)	PN LI J
緑地等	緑地等の位置、樹	 現地踏査により緑地等の状況を調査	事業予定地及びそ	 存在時
一次 地 守	緑地寺の位直、樹   種、面積、緑化率	現地超直により緑地寺の状況を調査 する。また、維持管理の状況を調査	事業予定地及びで   の周辺	│ │ │ │ │ │ │ │ │ │ │ │ │ │ │ │ │ │ │
	及び周辺との調和		V/미선	
		する。 からの芝售があった提合には、その内容		_

注)全調査事項について、市民等からの苦情があった場合には、その内容及び対処方法並びにその後の状況を調査する。